

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600293		
法人名	(有)ひなた		
事業所名	グループホームひなた		
所在地	石狩市花川南2条6丁目118		
自己評価作成日	平成25年11月21日	評価結果市町村受理日	平成26年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177600293-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177600293-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年1月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的で温かな雰囲気グループホームです。</li> <li>・ボランティアさんなど地域の方との交流を積極的に行っており、利用者さん達も笑顔で元気に皆さんをお迎えしています。</li> <li>・共用型のデイサービスを行っています。</li> <li>・レクリエーション活動にも力を入れており、皆で楽しく笑って活動できるよう工夫しています。</li> <li>・春から秋には積極的に散歩をしています。</li> <li>・お元気な方は冬でも散歩ができるよう支援しています。</li> <li>・ターミナルケアを行っており、ご希望の方は慣れ親しんだ環境の中で御家族・職員・主治医に見守られ、最期まで自分らしく生活することができています。</li> <li>・職員の離職率が低く、安定した親しみのある環境で生活していただいています。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>藤女子大近くの住宅地にある1ユニットの事業所で、管理者は介護施設で働いた経験を活かして、自宅生活と同様に暮せる場所を作ろうと10年前に自宅で開設した。地域のニーズに応じて共用型デイサービスを付加した。デイサービスの利用者やレクリエーションなどを通して、グループホーム利用者に新鮮な刺激を与えている。地域との交流も盛んに行われ、夏祭りなどの地域の行事に参加し、音楽・演芸ボランティアや、藤女子大生が食事の差し入れを持って訪れるなど地域と密接な関係を築いている。良いサービスには良い労働環境が必要と考え、サービス残業をなくし、きちんと休憩時間を取るよう配慮され、職員が長期間安定して働く要因になっている。看取りに積極的に取り組み、家族の泊まりがけの看取りを支援し、疎遠だった親子間が親密になっていった経験で職員は大きなやりがいを感じ、今まで3回看取りを経験した。天気の良い日は冬でも地域ボランティアと一緒に、気分転換やストレス発散、能力の維持のため散歩に出かけている。利用者は、家族・地域住民・職員に見守られながら毎日を自分らしく生き生きと暮らしている。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は管理者と職員が一緒に作りあげたものであり、常に理念を念頭に置き確認し合い実践に向けて努力している。	管理者と職員が話しあって作った理念「自分らしく共に生きる」「地域の人々と支え合う」を基に、ターミナルケアの実施や地域との相互交流などの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には進んで参加し、ボランティアとの交流も盛んである。利用者が地域とつながりを持ちながら暮らしていける様、付き合いを大切にしている。	地域の敬老の日の行事や夏祭りに積極的に参加し、事業所の焼き肉パーティなどへの参加を呼びかけている。調やフラダンスのボランティアや藤女子大生が頻繁に訪れ、地域と相互の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『まちかど介護相談所』として地域の方の相談を受ける体制を整えており、『グループホームひなた便り』の中でお知らせをしている。また職員の中に複数名のキャラバンメイトがおり、地域の中で認知症の理解を広める活動をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では積極的に報告や話し合いを行い、報告書の掲示という形で全職員に伝えている。又、数年前より同じ町内のグループホームと年2回程合同で運営推進会議を行い、お互いに良い刺激となりサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、地域住民(町内会長・民生委員)、家族、市職員などが出席して、行事、ボランティアの活動、ヒヤリハット事例の報告や避難訓練の結果について話し合い、意見や助言をもらって、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	キャラバンメイトでの毎月の集まりなど市の担当者とは顔を合わせる機会も多く、日頃から連絡を密にとり協力関係を築いている。	生活保護の更新や介護保険の手続きで市を訪れて意見交換を行い、情報交換、指導を得て協力関係を築いている。また、共用型デイサービスを行っている数少ないグループホームとして、市担当課から意見を求められ、相談を持ちかけられることも多い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や学習会等で全職員が身体拘束をしないケアを理解し、実践している。新しい職員も学ぶ機会を設け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。今後も職員の入れ替わりが予想できるので学習会等は継続していきたい。玄関については夜間のみ防犯・安全上施錠している。	身体拘束をなくすことは利用者の尊厳や自由を確保するために不可欠であると認識して、内・外部の研修会等に参加して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に言葉による拘束を見逃さないようにミーティングなどで話し合っている。防犯のため夜間だけ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	新しい職員も含め、全職員が高齢者虐待防止法等を学ぶ機会をもち、虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めているが、今後も学習会などで学ぶ機会を持ち続けていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などについて理解し、実際に活用するための支援を行った例もあるが、全ての職員が理解しているという訳ではないので、学習会等を通して理解が深まるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することについては、利用者及び家族に十分な説明を行い良く理解し納得されるよう図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見要望等を言える雰囲気作りができており、それらはミーティング等で話し合わせられ運営に反映させている。	日常のコミュニケーションから利用者の意向の把握に努め、来訪した家族と積極的に会話を交わすように心がけて、会話の中から意見や要望を聞き取るようにして運営に反映させている。来訪することが難しい家族に対しては、「ひなた通信」や電話で利用者の状況や情報を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングや年2回の個別面談・また気が付いた時にその都度代表者や管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回のミーティングは職員全員が参加して、2時間かけて話し合いを行い、運営に反映させている。管理者は職員から様々な意見が出されることを歓迎している。例えば「チューリップ開花予想」は職員の話し合いの中から生まれた提案である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者は個人面談などで直接話しをする機会を設け、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は研修会・学習会を受ける機会の確保や推奨を行っているが、例年に比べ、今年度は定年による職員の入れ替わりや人員不足などがあり、研修を受ける機会が少なかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ町内にあるグループホームとは交流を深め、年に一度の合同行事の運営企画・相互訪問等の活動を通してサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に頂いた情報をもとにし、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら職員間で情報交換や情報の共有をし、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始以前から家族の話しを十分に聞き、利用開始後も家族との情報交換をしながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、どんな支援を必要としているのかを見極め、アドバイスをしたり支援ができるよう柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に適したコミュニケーションをとりながら暮らしを共にする者同士の信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いと本人の思いを受け止め共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の訪問時には温かく迎え、本人も来訪者も気持ちよく過ごせるよう支援している。	職員は、できるだけ利用者のむかしばなしに耳を傾け、懐かしい気持ちや感情に浸ってもらうように努めて、馴染みの関係が途切れないよう努めている。馴染みの近くの理容室に歩いて通っている利用者もいる。来訪者とゆっくり話ができるように個室を用意するなどの配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は十分把握しているが、相性もあり、皆が仲よく良い関係になる事は難しい。一人一人が不快にならないよう、座席の位置や細やかな配慮を繰り返しながら利用者同士が関わり合い、支え合えるような関係ができてきている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談などがあれば、いつでも応じられる体制を整えている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望や意向の把握に努めている。そのためにも職員間の情報交換は必要であり、できるだけ本人本位に検討している。	介護の際に知り得た利用者の思いや要望をその場限りで終わらずに、出来るだけ記録し、職員で共有して意見交換をしながら、利用者の思いの実現に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にセンター方式シートに記入してもらうようにしており、その情報と日々の生活の中で利用者が話したことを職員間で情報交換しながら把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活をアセスメントシートに記録し、全職員がそれを見ることになっている。又、毎日の申し送りや月2回のミーティングで情報交換や検討をし、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のミーティングの中で本人がよりよく暮らすための課題とケアのあり方について十分話し合い、現状に即した介護計画を立てている。また、その場にはいないが、本人・家族・主治医の思いや意見も反映させている。	本人・家族の意向を聞き取り、主治医の意見を参考にして、月2回のミーティングでカンファレンスをして一人ひとりの状況を話し合っ、現状に即した介護計画を作成している。月に1回評価を行うが、変化があればそのつど変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現時点では家族の宿泊・共用型サービス・積極的なボランティア受け入れ・入院援助等、ニーズに合わせて対応してきており、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや町内会との交流、市との連携などで地域資源を把握し、本人が楽しい暮らしができるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や外来受診など本人や家族と相談し、納得の上でかかりつけ医を決めており、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。現在は往診医を利用する利用者が多いが、その他の眼科や耳鼻咽喉科への受診は家族の希望があれば管理者が同行している。治療方針の変更などの際も家族と同行して一緒に医師から話を聞き、ケアに活かせるように情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2日の非常勤の看護職員ではあるが、月2回のミーティングにも参加し、現状把握しており、24時間対応で職員からの連絡を受ける体制になっている。看護職員と相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように又、早期に退院できるよう病院関係者・家族と情報交換や相談に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所した早い段階から終末期のあり方について本人や家族の思いを聞いている事が多く、重度化してからは家族・代表者・管理者・看護職員・介護職員で話し合いの場を設け、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の指針」に基づき、利用者・家族に重度化した場合やターミナルケアを行っていることを話して、時期が近づいたときには、早め早めに家族と話し合いを重ねて、看取りなど希望に添えるよう支援している。家族の協力の下、3回の看取りの経験がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを参考にした学習会や外部の研修会参加などを行ってきただが、今年度は、その取り組みが行われず訓練も定期的に行われていなかった。新しい職員もいるので、今後又取り組んでいきたい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災時の避難訓練(昼夜)は行っているが、地震・水害等の訓練を行ったことがない。新しい職員もいるので、今後も訓練を見直しながらかつていきたい。地域との協力体制も訓練時にはできていず不安を感じる。	消防署の協力を得ながら、地域にも参加を呼びかけて、昼夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。その結果を運営推進会議に報告して、改善の意見をもらっている。また、ミニ避難訓練を年に数回自主的に行っている。	地震などの災害時、みんなが助け合い、利用者の身を守るために何をすべきかを職員みんなで考えて、実際にシュミレーションを重ねてより良い方法を探りながら、職員全員が緊急時に実践できるようになる事を期待する。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしているつもりだが、さらに学習会をしながら検証している。	言葉かけに気をつけ、一人ひとりの気持ちを大切に、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけているが、思いや希望を表すことが少なくなってきた方もいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの、一人ひとりのペースを大切に、希望に添えるよう心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の援助が必要な利用者が大部分になってきている。その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら準備や食事、片付けをするよう配慮しているが、調理などはできない利用者が増えてきている。一人一人の好みをさらに共有し楽しい食事となるようにしたい。	利用者ができる下膳や食器ふきを行って職員と一緒に会話をしながら楽しく食事をしている。誕生日などの行事食では、利用者の希望を聞いて献立を作ったり、地域ボランティアによって手打ちそばが振舞われることがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事や水分の量が確保できるよう記録をつけながら皆で把握している。ミーティング等で常に検討しながら状況変化に対応し支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ全員の口腔ケアを声掛けで行っている。本人の力に応じた口腔ケアを行っているが、自立してできる人が少なくなった。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が多くなっており、現在は全員が何かにかの排泄ケアが必要になっている。一人一人の力に応じてトイレでの排泄ができるよう支援している。	トイレでの自立排泄を保持できるように、排泄パターンを把握して適宜の声掛けをしている。特に、失禁の多い利用者には、職員で話し合っ、個別のトイレ誘導プランを作成して実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ等予防に取り組んでいるが、慢性的な便秘には医師と相談のうえ薬剤を使用している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事などで、入浴を中止にする日は、ごくまれにあるが、それ以外の日は、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう個々に添った支援をしている。	衛生面や本人や家族の希望を考慮して、入浴が希望に沿った楽しい時間になるように配慮している。嫌がる場合は強制はせずに、言葉かけや気分を高めて自然と入ってもらう方法で入浴に繋げている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室において、その時々状況に応じて休息したり気持ちよく安眠できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や目的については、いつでもわかるようにファイルにしており服薬確認は万全を期している。また症状の変化なども見逃さないよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションにも力を入れており、皆で笑ってできる事を考え楽しくできることを常に心がけている。日常生活においても一人一人の生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添った外出は、その日すぐということが難しい場合があるが、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、または職員体制を整えて出かけられるよう支援している。日々の生活の中では散歩が日常的になっている。	ボランティアの協力もあり、天候が良ければ毎日のように散歩に出かけている。冬も回数は少ないが数名が散歩を楽しんでいる。車での外出は、季節ごとに何名かに分かれて、大勢が行けるように車いすを貸してくれる公園などを探して出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、本人や家族の希望があり、事業所で預かっているが、本人が直接所有したいお金は、家族も納得の上で所持している。また、本人の希望や力に応じてお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりができるよう支援しているが、それを希望することが少なくなってきた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物その物が家庭的雰囲気であり、生活感、季節感の感じられる居心地の良い空間となっている。その中でも座席の配置などに配慮しながら居心地良く過ごせるような工夫をしている。トイレについては数も少なく、個々で使用方法も違い、トラブルが起こりやすいので、常に気を配っている。	一般住宅を改築した居間にはペチカが設置され、家庭的な雰囲気を醸し出し居心地よく、狭いことを活かして、手すりやつかまれる台を設置して、多くの場所で利用者が自力で歩けるようになっている。季節の飾り物や大きなカレンダーを飾って、見当識の保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には自室で過ごす方が多い。共用空間では気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう座席の工夫などをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの好みで各部屋が個性的に使われている。本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	家庭での生活にできるだけ近付くように、馴染みの仏壇や鏡台などを持ち込み、それぞれ居心地よく過ごせる部屋になっている。転倒を防止し、つかまれる場所を作るためベッドを真ん中に置くなど、利用者ごとの工夫を凝らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間では手摺なども多くつけ、浴室は個々の力に合わせた設定の工夫をしている。各居室での転倒防止のため、家具やベッドの位置など工夫し、建物内部で自立した生活が送れるよう支援している。		